種郵便物認可）　慶應義塾医学部新聞　毎月20日発行　定価1部20円　第760号

三四会支部だより

第3回 ボストン三四会

去る2014年9月27日、米国マサチューセッツ州ボストン市の隣にあるブルックライン市にて第3回ボストン三四会懇親会を開催しました。

ボストン三四会はニューイングランド地方に滞在・在住している三四会員が互いに助け合い、情報発信を行えるようなネットワークを構築するために2012年に設立され、毎年一回ほど会員の交流を目的として懇親会を開いております。今年も数多くの医学系研究機関が集まるボストンらしく日本からの留学組が大勢集まり、家族みんなで和気あいあいとした懇親会になりました。ボストン在住以外にもメイン州、ニューヨーク州、イリノイ州などで活躍している会員も参加し、三四会会員としては25名、家族も含めると総勢約50名にわたる盛大な会となりました。

まずボストンの地で40年以上に亘り泌尿器科医として御活躍されている土方允久支部会長(42回)による開会のご挨拶につづき、マサチューセッツ総合病院とのミーティング出席のためボストン滞在中であった、東京医科歯科大学医学部肝胆膵・総合外科学教授をお務めである田邉稔先生(64回)より乾杯のご発声をいただきました。なごやかに会員一同の懇談が進むなか、福村大(68回)、武岡正方(72回)両副支部会長につづいて、参加者全員の自己紹介が行われました。ボストン三四会には、まだこの地に留学して数週間という会員から在住40年以上におよぶ大先輩もおり、基礎研究だけでなく臨床現場でも目覚ましく活躍されている先生方が多く在籍されていることから、三四会会員が幅広い分野で精力的に活動している様子がうかがえました。

日本とは様々な面で異なる環境のもと、自分の研究室を厳しい競争の中で維持し続ける大変さや、子供たちの教育や日々の生活をどのように進めるべきかなど、数時間では足りないほど会員同士の活発な意見交換が行われました。今後もボストン三四会を会員一同で大切に運営し、ボストンにこれから多数訪れる後輩たちが少しでもスムーズに留学生活が始められるよう、互いが助け合える体制を整えることについて再確認し、盛会のうちに閉会となりました。

未筆ではありますが、本年度の懇親会開催にあたり多くの会員の皆様のご協力をいただけましたことを感謝申し上げます。

三四会員参加者：土方允久(42)、田邉稔(64)、福村大(68)、武岡正方(72)、持田ガネシュワラン仁司(73)、柏木哲(76)、柏木亜紀(75)、中山ロバート(80)、吉澤彰宏(80)、吉澤奈穂(80)、結城賢弥(80)、内野裕一(80)、内野美樹(80)、羽藤泰(80)、羽藤倫子(80)、福永真由子(80)、長谷川政徳(81)、西本祥仁(82)、鎌田浩史(82)、中山荘平(82)、野村寿博(82)、松木絵里(83)、君塚善文(83)、安西淳(84)、羽生田明子(91)(敬称略)(文責・内野裕一80回眼)

三四会横浜支部

平成26年度三四会横浜支部（横浜三四会）総会が、11月19日(水)横浜駅西口ベイシェラトンホテル&タワーズで開催された。8年前に八十島唯一会長（産婦37回）が就任し、「新生横浜三四会」として勤務医・開業医からなる役員会（29名）を構成し、会員全員参加目標として企画してから8回目の総会である。

当日は武田純三新三四会会長、末松誠医学部長、藤本英一鎌倉三四会会長の各主賓のほか、718名中125名（開業医43名、勤務医82名）の会員が集い、来賓や応援指導部までを含めると135人が参加し、例年通りの盛大な総会となった。当日の司会進行は、横浜市立横浜市民病院副院長で本会役員の小松弘一（内61回）が務めた。

八十島会長からの「本会の会員数は三四会全体の8%を占め全国一であるが、このように毎回多くの会員が総会に参加されていることは心強い。慶應医学100周年記念事業の新病院棟建設募金についても三四会目標の8%である2億4000万円を支部目標として会員に積極的に協力してもらい、世界に冠たる慶應医学完成に貢献したい」という挨拶で開会した。

その後武田三四会会長が、新執行部となった三四会活動について述べられ、100周年記念事業の一環として三四会讃歌を創ることとなり、その歌詞募集についてのお話があった。末松医学部長は、新しく出来た100周年記念事業のチラシの裏にFAXで簡単に申し込みができる(仮)寄付申込書が印刷されたものを参加者に配られて募金を心から強くうったえられ、工事の進捗状況と来春100回生を迎える医学部の現状（クラスター部門と新奨学金制度）についてのお話しがあった。またご自身が来春退任されて、政府の企画する「日本医療研究開発機構」に移られることを述べられ、その機構のご説明を頂いた。国の医療行政のセクショナリズムを排した改革に壁は厚いと思われますが辣腕を発揮して頂きたい。期待してやみません。

庶務・会計報告の後、慶應義塾大学整形外科準教授、中村雅也先生（整66回）による、『脊髄損傷患者を治したい!!—脊髄再生医療の現状と展望—』についてのご講演を拝聴した。なお座長は、先生の整形外科脊椎脊髄班の先輩にあたる、現けいゆう病院副院長で本会役員の鎌田修博（整61回）が務めた。

医学部では我々は、古くから脳や脊髄等の中枢神経は再生不可能と教えられているが、中村先生は前途有為な若者が外傷による脊髄損傷（脊損）で多大なハンディキャップを背負いながら生き続けている姿を見て、不可能を可能にする脊髄再生医療を志された。脊損の発生のメカニズムを細かく捉え、従来の姑息的治療法から脱却して神経幹細胞による再生の研究に進まれ、2006年にはマーモセットというサルにヒト由来の神経幹細胞移植が可能となったそうだが、その後ヒトからヒトへの移植にあたり、ノーベル賞の山中教授との出会いを経て、iPS細胞を利用しての脊髄再生への道が開かれようとしているという内容であった。今や急性期脊損は肝細胞増殖因子で解決できるとのこと、大変驚きつつ拝聴したが、亜急性期から最終的に慢性期脊損の再生となると、iPS細胞を使った場合の腫瘍化や移植できるまでの時間短縮等、まだまだ解決しなければならない問題が山積しているとのことであり、先生の更なるご活躍が期待される。学生時代に一緒にスキーに行った後輩が、事故で脊損になるのを傍らで見られた体験から、医師としてこれを治せるようになりたいと熱く語られる先生のご講演に、参加者一同深い感銘を覚えた。先生には是非慢性期脊損患者さんを治し、臨床医学での金字塔を立てて頂きたいものと考える次第である。

講演後、三田塾監局より拝借した大塾旗を仰いで、塾応援指導部員の下塾歌斉唱を行い、東邦大学医学部長　高松研先生（生理57回）による乾杯のご発声で開宴した。29回生の大先輩から93回生の新卒者までが集う会であったが、研修医に対しての会費の割引効果からか、初期・後期併せて18名の研修医が参加し、会場には若い層の出席者が多く、華やかな雰囲気の宴であった。本支部では、会員間の連絡充実を目的として昨年秋にホームページを作成しているが、終宴近くにホームページ担当役員の三谷和彦(内64回)が本支部ホームページについての現状、今後の目標、パスワード周知などの説明を行い、更に三四会本部の副会長で本支部役員でもある古梶清和（外63回）が、三四会HPの紹介と開業医への関連施設登録の呼びかけを行った。

締めとして、2名の応援指導部の指揮による応援歌「若き血」「チャンスパターン」「三色旗の下に」のメドレーに拍手を送りながら歌い、4名のチアリーダーによる華麗なチアダンス「ウィーアー」を楽しみ、最後に「慶應讃歌」を全員で肩を組みながら歌って一同大いに盛り上がり、興奮冷め遣らぬうちの散会となった。

出席者：八十島唯一(37)中村雅也(66)武田純三(52)末松誠(62)藤本英一(40)前田外喜男(29)斎藤佳雄(31)能勢亨(34)竹内宏(36)雨宮章(38)鈴木理文(38)野崎正之(39)廣瀬久也(39)横井正博(39)新井健之(40)岩田清二(41)佐藤善之(41)八木禧昭(41)朝倉均(42)西川武二(43)藤山順豊(44)川城丈夫(45)杉浦芳章(46)村井勝(46)木内準之助(48)宮地清光(48)秋山武仁(50)黒川明子(50)坂巻豊教(50)菅原信(50)中原克彦(50)内藤政人(50)馬場志郎(50)明石敏男(51)菅信一(51)鈴木彰(51)菅谷憲夫(51)森井誠二(52)渡辺知雄(52)佐々木孝(52)吉井宏(53)松山松雄(54)中村恒夫(54)中野眞佐男(55)久保内光一(55)永田博司(56)前澤眞理子(56)内田伸弘(57)高松研(57)吉村慎一(57)石原淳(58)城裕之(58)嶋田昌彦(58相当)山下真紀(58相当)中島史雄(59)三角隆彦(60)宮田博(60)藤井芳明(60)小松弘一(61)野本聡(61)山中一良(61)鎌田修博(61)小西康博(62)山下行雄(62)吉田宏(62)田口暢(62)永見圭一(63)古梶清和(63)江端広樹(64)千葉和宏(64)三谷和彦(64)小形章(64相当)野村有子(65)松本秀年(65)鈴木孝司(66)増山宏明(67)河原由恵(68)山下裕(68)坂田道生(68相当)小山田和弘(69)安井信隆(69)松田洋人(69相当)各務宏(70)倉田忠宣(70)陳建綱(72相当)藤田有里子(73)岡沢啓(73)中里朝周(74)関博章(74)森田晃造(74)川口正春(74相当)吉井毅(75)小浦貴裕(75)小池祐司(75相当)相佐好伸(76)小杉道男(76)諸星雄一(77)重富征爾(79)今井孝俊(79)荒瀬透(79)川崎俊樹(80)内藤広太郎(80)石田勝(81)田村高越(81)原義和(81)持丸佳之(82)蔵本哲也(83相当)高野盛登(84)笠井弘子(85)阿部晃子(85相当)西山崇経(88)毛部川真理(89相当)高橋萌(90)長谷川哲雄(90)伊藤智章(90)大判直央(90)小泉亘(90相当)眞木順子(90相当)井上恭平(91)平出貴裕(91)酒井悠(92)坂野彩(92)吉本憲史(92)妹尾祥平(93)稲毛純(93)田中美波(93)田中肇(93)福村麻里子(93)藤田進也(93)計129名応援指導部6名、計135名（文責　久保内光一　外55回）

川崎三四会総会

川崎三四会の定時総会・講演会が、秋月哲史会長(49回)のもと平成26年11月12日に川崎日航ホテルにおいて開催された。2年ぶりの総会は、35回生から93回生まで幅広い層に渡る総勢85名という大勢の出席者を迎えた。

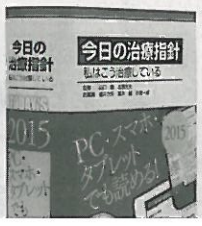
総会では川崎三四会の新会長に川崎市立川崎病院の堀内行雄院長（52回）が就任したこと、副会長には新たに東京女子医科大学高血圧内分泌内科の関田恒二郎（47）水間哲郎（48）秋月哲史（49）青木誠(49)武田純三(52)堀内行雄（52）橋本光正(54)成松芳明（54）朝山光太郎（54）吉岡政洋(56相当)林保良（56相当）竹中信夫（57相当）宮川俊一(58)中村薫(58)岡野裕(59)熊丸裕也(59)小柳貴裕（59）山内健二(60)小川健二(60相当)宮島伸宜（61）古川智洋(61)末松誠（62）掛札敏裕(62)相浦浩一(63)伊藤泰大輔(63)山下方也(63)嘉夫(47)加野象次郎(47)千恵(78)和多田晋(79)津村由紀（79相当）植木有紗(83)田中希宇人(84)安藤嘉門（84相当）阪本浩平（86）荒井学（89）吉野華菜（89相当）菅家裕子（90相当）淵田幹太(92)高聖淵(92)竹原朋宏(92)白川和宏(92)倉持信(93)高橋香菜(93)小林研太(93)津軽開(93)脇坂悠介(93)櫻井亮佑(93)増本奈々(93相当)　敬称略

祝田靖（65回）記

毎年全面新訂。信頼と実績の治療年鑑

今日の治療指針 TODAY'S THERAPY 2015

私はこう治療している　監修 山口　徹・北原光夫　総編集 福井次矢・高木　誠・小室一成



2015年版の特長
●専門外の疾患の診察に役立つ見出し「専門医へのコンサルト」を新設
●主要疾患約250項目に、治療法を要約した見出し「治療のポイント」を掲載

本書の特長
●日常臨床で遭遇するほぼすべての疾患・病態に対する治療

1回の会合に参加している

大脳生理学を50年研究して来て、認知機能の障害が如何に重要であり、人間性の崩壊を招く諸症状に直結してけるかを試行錯ら、週日は接しているし

三、バッハ／モート／フォーレ等曲を、ワグネルエティで学生の